

1) はじめに

ネギは中国が原産とされるユリ科に属する野菜です。大別して根深ネギ、葉ネギ、小ネギに分けられ国内でも各地域で栽培されています。博多の代表的な味と香りをもつ「葉ねぎ」は、今や全国に年間を通して需要が拡大しつつあります。薬味として用いられるだけでなく、麺料理や丼などに彩りを加える料理の引き立て役としても重宝されています。

2) 圃場準備

『博多の葉ねぎ』を栽培するにあたり、日当たりや排水がよく、灌水に便利な圃場を確保しましょう。初作は10a当たり堆肥4～6t程度施し地力を高めます。元肥にはN成分を多めにしておくのもポイントです。pHは苦土石灰の施用で6.0～6.5位に合わせますが、年に1度は土壌診断を実施すると良いでしょう。

3) 播種

- 播種量は小ねぎ栽培で10a(300坪)当たり3～4程度です。(40～60cmの小ねぎとして収穫の場合は1㎡当り500～600粒を目安に条まきし、厚まきにならないように注意します。)
- 収穫時期の就業労力に応じて播種面積を決定します。
- 土壌の乾きがひどい時は、播種2日前位にあらかじめ灌水をしておきます。
- 畝幅2.5mに播き幅5～7cmを1条とし、条間は20～25cmにします。(冬期10～11列、夏期9～10列にし、換気良くする管理を心掛けます。)
- よく覆土がなされているか確認し、枕は手播きして覆土します。

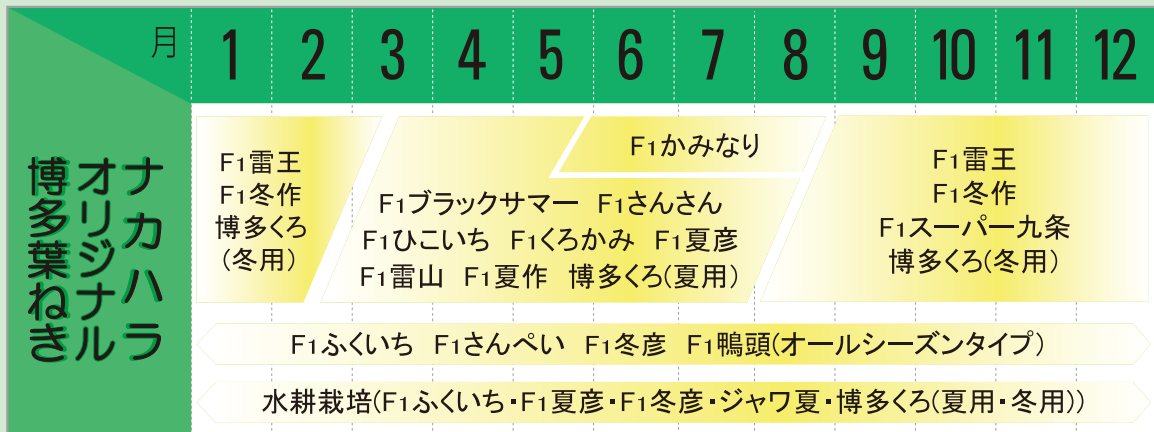
- 発芽を一齐にさせるよう充分に灌水し、ムラ散水をなくすよう手灌水で補います。
- 発芽までは被覆材を用いて床面が乾かないよう注意します。

4) 発芽後の管理

- 発芽が揃った時点で立枯れ予防の為に出来るだけ灌水を控えます。
- 被覆材の上からフック状の発芽が確認できる頃夕方、被覆材を除去します。
- 本葉2葉期までは、圃場の表面が乾燥しないように注意します。(乾燥が激しい場合は、朝・夕2回灌水します。)
- 本葉が2.5葉期、草丈が15～20cmに伸びた頃から底根作りのために灌水を控えます。(極端な水切りはラッキョ玉の原因となるので注意します。)
- 収穫前より乾燥させ葉色・葉肉を向上させます。

5) 収穫と出荷

収穫は茎の直径5～7mm、草丈40～60cmで行ない、適期収穫に努めます。収穫した葉ねぎはコンテナに入れて持ち帰り、痛んだ外葉、病葉、葉先の枯れたもの等を除去し、本葉2～3枚に調整します。博多では、調整後のネギを輪ゴムで100gの小束にし、3kgの30束入りでS・M・Lと仕分けして箱詰めて市場へ出荷します。



葉ねぎ栽培の水管理

